

総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会  
 省エネルギー小委員会（第6回）  
 コメント

2014年10月21日

（一財）日本エネルギー経済研究所 理事長 豊田 正和

① デイマンドレスポンス

● **ビジネスモデル構築を通し、世界をリード**

デイマンドレスポンスの活用は、ピーク対策の観点から、大きな期待が持てる取り組みである。我が国が世界に先駆けて、その実用化を図ることにより、自動制御機能を備えた HEMS/BEMS の普及やアグリゲーターの活躍などの新規ビジネスと共に、国内は勿論、関連インフラやビジネスモデルの輸出も含め、世界へ事業展開を図ることが望まれる。

● **ネガワット取引**

デイマンドレスポンスの仕組みの形成に加えて、積極的な消費者参加に向けたインセンティブとして、ネガワット取引の実用化への期待は大きい。スマートシティといった、より広い地域を網羅したモデルタウンなどにおける実証実験により、その効果を検証してはどうか。

② 費用対効果

● **省エネの貢献**

今後進められるエネルギーミックスの議論において、省エネの貢献を明確に示すためには、要素技術別に費用対効果を把握することが重要である。また、これは、コストバリアを下げることにより、より大きな省エネ効果が期待されるものから、優先的、かつ効果的に導入支援を行うためにも重要である。高効率技術の普及は我が国製造業の活性化にもつながるので、トップランナー制度充実とともに導入補助も積極的に検討いただきたい。